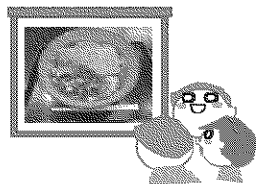


## センターからのお知らせ

### 始まりました！「やわらかテーマから考える環境かみしばい」

今年は地球温暖化防止に向けての大切な1年です。京都議定書による二酸化炭素削減のための約束目標期間が始まりました。また、7月には各国の首脳が環境対策を話し合う「洞爺湖サミット」が開催されます。環境問題は国としてだけでなく、私たち1人1人が意識を持って取り組んで行かなくてはなりません。

自然学習センターでは、「紙芝居」形式で、身近なテーマから環境問題を考えてもらおう、という新たな企画を始めました。題して「やわらかテーマから考える環境かみしばい」。例えば、その1「きつねうどん」では、原料である小麦や大豆がどこでとれたものなのか知ってもらい、輸送にかかるエネルギーの問題や、環境にやさしい「地産地消」の考え方を紹介しました。また、その2「かさ」では、使い捨てのように利用されているビニール傘を取り上げ、ごみを出さない工夫について一緒に考えました。土曜日もしくは日曜日の13時30分から、館内で呼びかけをして行います。これからも新作が続々登場します。ご期待ください。

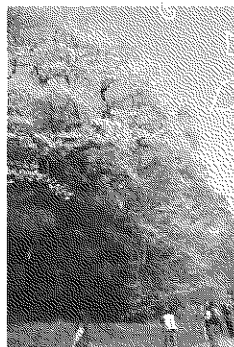


### 子どもたちいきいき「キッズ生きもの研究室」報告

「キッズ生きもの研究室」は、生きものを「見て、調べて、考えて、まとめる」作業を通して、自然へのより深い興味を引き出し、自然を見る力や知識、人に伝える力を養うプログラムです。生きものたちと、そのまわりを取り巻く土や水などの環境も含めていろいろな調査を行いました。参加してくれた皆さんからは「あまり好きでなかった生きものが大好きになったよ!」、「普段できないことができてとてもおもしろかった!」など、また、お父さん、お母さんからは「学校では学べないことばかりでとてもよかったです!」、「子どもが自然に触れたとき、心も体もゆっくり、穏やかになると感じました!」といった感想をいただきました。

### サクラの季節 お花見は公共交通で

北本自然観察公園では例年3月20日前後からエドヒガンザクラが開花し、来園者ももっとも多い季節を迎えます。天気がよい休日には駐車場が混雑し、せっかくおいでいただいても満車で止められない、という状況が発生しますので、公共交通の利用をおすすめします。公共交通を利用すれば、二酸化炭素の排出削減にもなります。たとえば大宮から北本まで自家用車で来る場合には、1人あたり2.8kg二酸化炭素が排出されますが、電車で来る場合には0.31kgで済むので、排出量は9分の1になります。現在、JR高崎線北本駅から自然観察公園までは10～15分に1本の路線バスが出ています(北里メディカルセンター病院行き、または石戸蒲ザクラ入口行きで約15分)。駐車場の心配をする必要がなく、かつ温暖化防止にも貢献できる電車、バスの利用にご協力ください。



## 公園日記より<2007～2008冬編>

### 冬の野鳥情報【12月19日(木)】

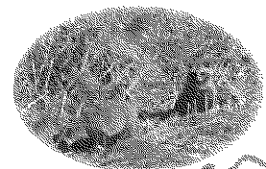
本日も厳しい寒さでしたが、鳥好きには熱い? 1日でした。36種類の鳥が確認されています。公園を巡回中、キッキキッキと声のできで見上げると、ハイタカが木にとまっていました。小鳥を捕ろうと待ち伏せて、何度かアタックしていましたが、あえなく失敗。厳しい冬をがんばって乗り切ってください。

昨シーズンはウソヤカヤグリが多く、公園内の人気者になっていました。今シーズンは、久しぶりにキウイタダキがやってきたり、ルリビタキが多かったりと、また趣が変わりました。

### 草地でひなたぼっこするタヌキ一家【2月8日(金)】

ひさしぶりに、タヌキを5頭見つけました。以前よく観察されていた、高尾の池の湿地です。かたまって日光浴をしているかのような様子でした。最近テレビでも、「家族で集まると暖かくて省エネ対策」なんてやっていますが、ちょっと似ている…。かしこく生きていく知恵は同じ!?

年末から年始にかけて天気の良い日には、高尾の池の周りでよくタヌキが見られました。本来、夜行性の動物ですから昼間観察するチャンスは少ないのですが、ちょうど人が近づけない場所で安心しているのか、のんびり過ごしている様子でした。



### 北本自然観察公園より

#### その1 森林の気候緩和機能

森林は二酸化炭素の吸収源としてだけでなく、気候緩和機能によっても温暖化防止に貢献しています。真夏の暑いときでも、林沿いの園路を歩くと、涼しく感じます。これは直射日光を遮ることと、水分を根から吸い上げ、葉から蒸発させるときに日射のエネルギーを使うためです。初夏のころには日なたに比べ5℃前後も気温を下げることがあるそうです。

#### その2 カエルのすむ水辺づくり

ここ数年、公園内でトウキョウダルマガエルを見る機会が減っています。水田を代表するカエルですが、全国的に減少しています。公園から姿を消したのも水田のような環境が減ったからではないか。そう考えて、八つ橋の池向かい側の湿地に一部深みを作って、水をためました。今年は「国際カエル年」。生態系の中で重要な役割を持つカエルの保全は、自然と共存したまちづくりを目指す上でキーポイントになります。さて、トウキョウダルマガエルは戻ってきてくれるでしょうか。

